

第3次中山町食育・地産地消推進計画

令和7年3月

中山町

目 次

1	第3次中山町食育・地産地消推進計画の策定にあたって	
(1)	計画の趣旨	2
(2)	計画の位置づけ	2
(3)	計画の期間	2
2	食育・地産地消に関する現状と課題	
(1)	食育・地産地消アンケート調査の概要	3
(2)	近年の食生活	4
(3)	健康づくり	7
(4)	食の安全・安心	8
(5)	食の生産	10
(6)	食文化の継承	12
(7)	町民の食への意識	13
(8)	中山町食育・地産地消推進計画（令和2年3月策定）の目標と実績	16
3	食育・地産地消の目標	
(1)	重点目標	17
(2)	第3次中山町食育・地産地消推進計画の数値目標	17
4	食育・地産地消推進の柱と方向性及び主な取組み	
(1)	食における健康づくり	18
(2)	地産地消と安全・安心な食	19
(3)	食文化の継承	20
(4)	食を楽しむ、食に感謝する	21
(5)	6次産業化の推進	22
5	資料	
(1)	食育・地産地消アンケート 《小学生・中学生》	23
(2)	食育・地産地消アンケート 《成人》	25
(3)	第3次山形県食育・地産地消推進計画における数値目標	28
	中山町食育・地産地消推進協議会設置規約、協議会委員名簿	29

1 第3次中山町食育・地産地消推進計画の策定にあたって

(1) 計画の趣旨

令和2年3月に策定した第2次中山町食育・地産地消推進計画では、「食育（※1）・地産地消（※2）の大切さを広く住民に広める」「朝食の摂取率の維持に努め、主食・主菜・副菜をバランスよく食べることを推進する」「地場産農産物の消費拡大と、地場産農産物を活用した加工品の商品化を推進する」を重点目標とし、食育・地産地消を推進するため「食における健康づくり」「地産地消と安全・安心な食」「食文化の継承」「食を楽しみ、食に感謝する」「6次産業化の推進」の5つの柱を定め、庁内各課や関係団体が連携し、幅広い分野で様々な活動を展開してきました。

しかし、子どもに限らず若い世代において朝食欠食が見られることや、中食（なかしょく）（※3）や外食などで食事を済ませることが増え、新型コロナウイルス感染対策の一環の黙食（もくしょく）の影響による学校給食でのコミュニケーションの減少、食習慣の乱れや偏食などの食生活に起因する生活習慣病（※4）が増加するなど、食生活の課題が依然として生じています。

一方、国では令和3年3月に若い世代を中心とした食育や食文化の継承など新たな課題への対応を含む「第4次食育推進基本計画」を策定し、本県においても令和3年3月に関係者が連携した食育・地産地消を実践しやすい体制づくりを進め、子どもから高齢者まで県民一人ひとりの「実践」を促すため、新たな「山形県食育・地産地消推進計画」を策定しました。

本町でも、こうした社会の変化や国及び県の新たな計画の方向性を踏まえながら、「食」の在り方を再度見つめ直し、望ましい食生活を実践していくことにより、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができる社会の実現に向けて、新たな「中山町食育・地産地消推進計画」を策定します。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、食育基本法第18条に規定する「市町村食育推進計画」並びに地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律第41条に規定する「地域の農林水産物の利用の促進についての計画」と位置づけます。

(3) 計画の期間

本計画の期間は、令和7年度を初年度とし、令和11年度を目標年度とする5カ年計画とします。
なお、社会情勢の変化により、必要に応じて見直しを行うものとします。

- ※1 食育：「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに、様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」こと
- ※2 地産地消：地域で作られた農産物・水産物を、その地域で消費すること
- ※3 中食：総菜やコンビニ弁当などの調理済み食品を自宅で食べること
- ※4 生活習慣病：食生活や飲酒、運動不足などの生活習慣との関係が大きい病気のこと、悪性新生物、心疾患をはじめ、糖尿病、高血圧なども含まれる

2 食育・地産地消に関する現状と課題

(1) 食育・地産地消アンケート調査の概要

①調査目的

町民の食生活や地場産品の利用等に関する意識と実態を把握し、第3次中山町食育・地産地消推進計画の策定及び食育・地産地消計画に関する施策の参考とする。

②調査時期

令和6年11月～12月

【第2次計画調査時期：令和元年9月～11月】

③回収結果

小学校6年・中学校2年生（Google フォーム）※5

117人

成人 ・総合健診受診者

・なかやま保育園児の保護者（各世帯から代表1名）

・町公式LINEアカウントを登録している18歳以上の中山町在住者（Google フォーム）

334人

【第2次計画：小学校6年・中学校3年生 197人 成人（無作為抽出） 748人】

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

※5 R1の中学生のアンケート対象の学年は中学3年生であるが、R6は中学2年生が中学生のアンケート対象の学年になる

(2) 近年の食生活

【現 状】

全国的にみて三世代同居より核家族の割合が増加しています。当町でも、人口は減少していますが、世帯数は増えていることから同じ傾向にあると思われます。社会情勢の変化やライフスタイルの多様化により家族間の生活時間にズレが生じ、家族と一緒に食事をとることが困難な家庭や子どもの生活に十分関わることのできない家庭があり、食習慣においても外食をはじめ惣菜などの調理済食品やお弁当といった中食が定着し、主食（※6）、主菜、副菜のそろった食生活が減少しています。

アンケート結果では、朝食を「毎日食べる」と回答した人の割合が令和元年度に比べると令和6年度では下がったものの、全ての年代で8割以上となっており、一定の水準を保っております。朝食を食べない理由としては、「食欲がないから」「朝起きる時間が遅く食べる時間がないから」の回答が多く、生活習慣の乱れが影響していることが伺えます。朝食の内容については、主食、主菜、副菜がそろった食事をとっている人が小中学生・成人ともに目標値を下回っており、栄養バランスが乏しい食事をとっている人が多い現状と考えられます。なお、朝食を「家族の誰かと食べる」人は小中学生・成人ともに全体で一番割合多く、夕食を「家族全員そろって食べる」との回答が中学生は6割を超える結果となりました。

【課 題】

生活習慣が乱れると食生活が不規則になってしまう可能性があるため、ライフスタイルに合わせて生活リズムを整えることが必要です。そして、朝食の大切さを理解し、朝食を毎日食べる人の割合の維持・向上を目指していくことが課題となります。

また、一人ではなく誰かと食事を共にし、栄養バランスの取れたおいしい食事をするすることで、食事の楽しさを知り、食への興味・関心を高めていくことが今後の課題となります。そのためには、食事のマナーや食べ物に感謝する気持ちなど、基本的な食習慣を身につける機会を増やしていく必要があります。

問 朝食を毎日食べていますか

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 毎日食べる	94.9%	80.0%	84.8%	87.7%	85.2%	81.7%
2. 週に1～2日食べない	5.1%	16.7%	10.1%	10.5%	4.5%	6.6%
3. 週に3～4日食べない	0.0%	1.7%	1.0%	0.0%	2.3%	3.0%
4. ほとんど食べない	0.0%	1.7%	3.0%	1.8%	4.7%	6.6%
無回答	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	3.3%	2.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

※6 主食：米・パン・めん類などの穀物で、主として糖質性エネルギーの供給源となっていること

問 朝食は、どのような内容がもっとも多いですか（「1 毎日食べる」「2 週1～2日食べない」と回答した人）

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 主食（ごはん、パンなど）とおかず	85.7%	63.8%	80.9%	76.8%	86.1%	76.9%
2. 主食（ごはん、パンなど）だけ	12.2%	29.3%	13.8%	21.4%	9.1%	14.9%
3. おかずのみ	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	1.5%	0.0%
4. 果物だけ	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.3%
5. 飲み物だけ	0.0%	1.7%	1.1%	0.0%	0.0%	0.7%
6. その他	1.0%	3.4%	0.0%	1.8%	1.3%	2.7%
無回答	1.0%	0.0%	1.1%	0.0%	1.5%	4.4%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

問 朝食を食べない理由は何ですか（「3 週に3～4日食べない」「4 ほとんど食べない」と回答した人）

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 食欲がないから	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%	32.7%	37.5%
2. 太りたくないから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%
3. 朝起きる時間が遅く、 食べる時間がないから	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	34.6%	34.4%
4. 朝食が用意されていない から	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.8%	0.0%
5. その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	18.8%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	9.4%
合 計	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

問 食事は家族そろって食べていますか（朝食）

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 家族全員そろって食べる	20.4%	13.3%	10.1%	12.3%	30.7%	27.2%
2. 家族の誰かと食べる	64.3%	53.3%	52.5%	57.9%	32.0%	38.6%
3. 一人で食べる	10.2%	31.7%	33.3%	29.8%	25.3%	25.7%
4. 食べない	3.1%	0.0%	4.0%	0.0%	5.7%	5.4%
5. その他	1.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%
無回答	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	2.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

問 食事は家族そろって食べていますか（夕食）

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 家族全員そろって食べる	48.0%	56.7%	45.4%	63.2%	44.8%	54.5%
2. 家族の誰かと食べる	44.9%	35.0%	43.4%	33.3%	27.9%	33.2%
3. 一人で食べる	0.0%	5.0%	7.1%	1.8%	11.4%	8.4%
4. 食べない	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	1.6%	0.6%
5. その他	2.0%	3.3%	0.0%	1.8%	1.3%	1.2%
無回答	5.1%	0.0%	3.0%	0.0%	13.0%	2.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

(3) 健康づくり

【現 状】

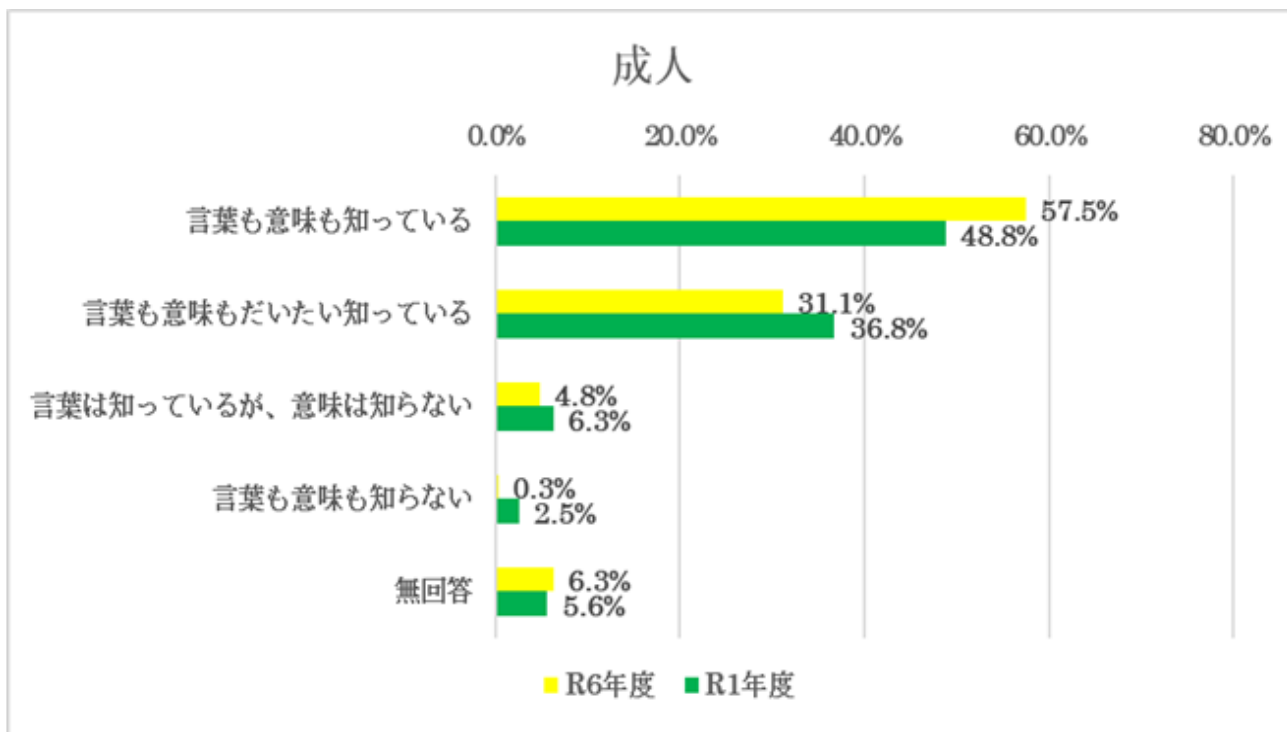
社会構造の変化や町民の価値観の多様化を背景に、栄養の偏りや不規則な食習慣、肥満や生活習慣病の増加、過度のやせ志向などの問題があります。不規則な食生活や運動不足などは肥満をもたらし、糖尿病、脂質異常症、高血圧など多くの生活習慣病の温床となります。また、やせ過ぎは、貧血や月経異常、骨粗鬆症などに繋がります。

アンケート結果では、メタボリックシンドローム（※7）の認知度は令和元年度と比べると高まっており、半数以上の人から理解を得られている状況です。しかし、認知度と高まりに反して、野菜の摂取に関しては「1日3回食べる」人が令和元年度と同様に3割を下回る結果となりました。

【課 題】

メタボリックシンドロームや生活習慣病の大きな要因は、好ましくない生活習慣の積み重ねにあるため、まずは自分の「適正なエネルギー量」を知り、食事のとり方や運動量など毎日の生活を見直すことが必要となります。また、野菜を積極的に取り入れ、バランスの取れた食事を身につけることが大切です。健康寿命の延伸につながる食習慣と運動や栄養のバランスなど望ましい食事により、生涯にわたって健康な生活を送れるような食習慣の確立を目指します。

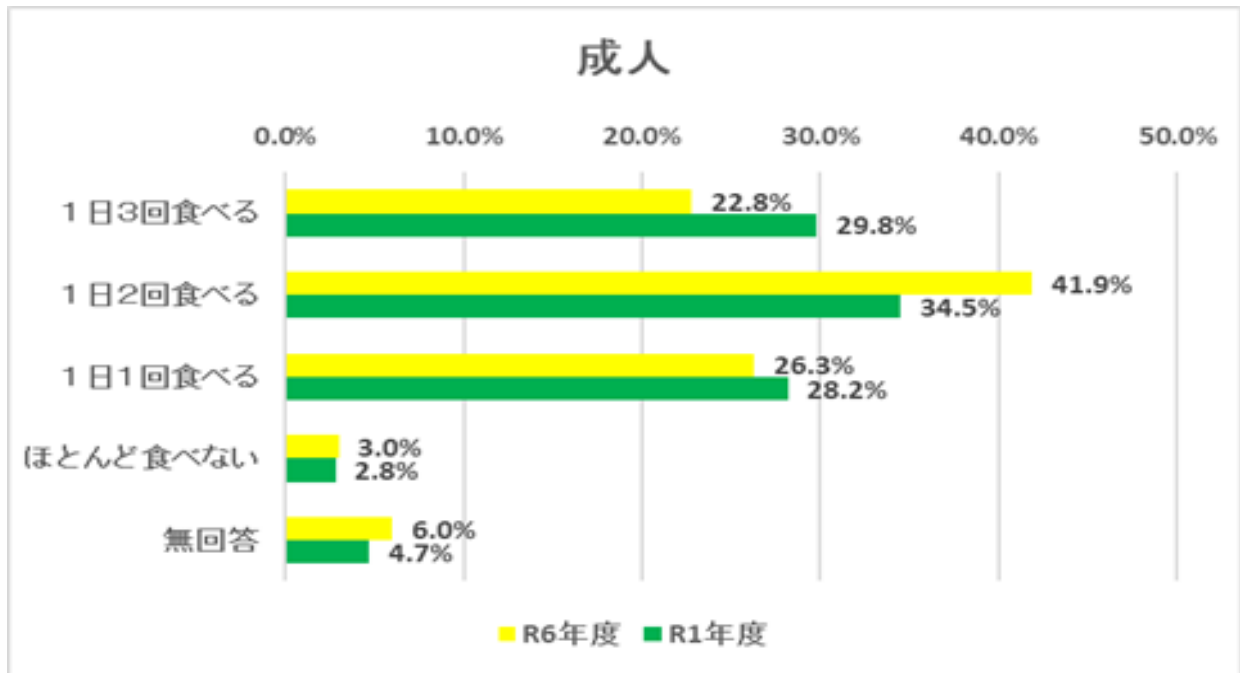
問 メタボリックシンドローム（内臓肥満型症候群）という言葉やその意味を知っていますか



資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

※7 メタボリックシンドローム：肥満、脂質異常、高血糖、高血圧といった動脈硬化の危険因子をいくつも併せもった状態

問 毎日野菜を食べていますか



資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

(4) 食の安全・安心

【現 状】

アンケート結果では、地産地消の「言葉も意味も知っている」人が中学生と成人で8割前後と高い水準を維持しています。また、地産地消に「どちらかといえば興味・関心がある」と回答した人は、小学生および中学校で大きく増加し、義務教育世代での地産地消に対する興味・関心が高まっていることがわかります。また、「地産地消」について、小中学生・成人ともに「安全・安心な食べ物を食べることができること」への興味・関心が高いことがわかります。

【課 題】

食品の安全性が損なわれれば、人々の健康に影響を及ぼし、時には重大な被害を生じさせる恐れがあることから、食品の安全性と町民の食に対する知識と理解を深めることが求められています。食の安全・安心のためには、消費者自らが食の安全に関心を持ち、食に関する正しい知識を身につけるとともに、町民・生産者・食品関連事業者及び行政が連携を図り、相互理解と信頼関係を構築することが重要です。併せて、新鮮で安全・安心な地元の食材を地元で消費する地産地消の取組みを拡大していく必要があります。

問 「地産地消」という言葉や意味を知っていますか

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 言葉も意味も知っている	54.1%	55.0%	76.8%	82.5%	78.7%	79.3%
2. 言葉は知っているが、 意味は知らない	32.7%	35.0%	7.1%	17.5%	9.6%	7.5%
3. 言葉も意味も知らない	13.3%	10.0%	16.2%	0.0%	7.0%	6.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%	6.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

問 「地産地消」に「興味・関心がある」がありますか

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 興味・関心がある	15.3%	13.3%	8.1%	8.8%	33.0%	31.4%
2. どちらかといえば興味・関心がある	28.6%	53.3%	35.4%	57.9%	42.0%	43.7%
3. どちらかといえば興味・関心がない	21.4%	20.0%	23.2%	22.8%	9.2%	12.9%
4. 興味・関心がない	8.2%	3.3%	16.2%	8.8%	3.7%	3.0%
5. わからない	21.4%	10.0%	14.1%	1.8%	7.9%	2.1%
無回答	5.1%	0.0%	3.0%	0.0%	4.1%	7.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

問 「地産地消」について、どんなことに興味・関心がありますか。

(「1 興味・関心がある」「2 どちらかといえば興味・関心がある」に回答した人

小学6年 40人 中学2年 38人 成人 250人) (あてはまるもの全てに○印)

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 食料を外国からの輸入に頼らず、自給自足を目指すこと	37.2%	32.5%	48.8%	44.7%	41.3%	49.6%
2. 自然環境に合った食べ物の生産が必要であること	51.1%	47.5%	23.2%	23.6%	47.9%	38.8%
3. 安全・安心な食べ物を食べることができること	69.7%	57.5%	67.4%	50.0%	83.0%	76.0%
4. 地元の食べ物やしきたりを受け継いでいくこと	41.8%	45.0%	51.1%	47.3%	37.0%	39.6%
5. 農作物を作る人と食べる人の間の交流や信頼が重要であること	30.2%	27.5%	13.9%	31.5%	39.2%	32.4%
6. その他	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	1.4%	2.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	29.9%	1.2%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

(5) 食の生産

【現 状】

本県の食料自給率（※8）は、概ね140%前後で推移し、令和3年度は北海道、秋田県に次いで全国第3位と高い水準です。しかしながら、肉、魚介類などの多くを他県産、外国産に頼っている状況となっています。（出典：令和5年度食料自給率・食料自給力指標について（農林水産省））

米は町農業の基幹作物に位置付けられており、化学肥料や農薬を減らした環境保全型農業による米の生産などの取組みが進められています。また、小中学校等の教育機関では、稲作や畑作の体験学習を授業に取り入れ、作り手に対する感謝の気持ちと食べ物を大切にする心を育む取組みを行っており、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動に理解を深めています。

【課 題】

今後も食と農との関わりを学ぶ体験学習の推進を図り、当町の農業に対する関心を高めるとともに、魅力ある産業に育てていくことが重要です。

※8 食料自給率：国内の食料消費が、国内の農業生産でどの程度賄われているかを示す指標。カロリーベース総合食料自給率
＝1人1日当たり国産供給熱量／1人1日当たり供給熱量

●中山町で生産されている主な野菜

野 菜	学校給食で使 用している	収穫時期	野 菜	学校給食で使 用している	収穫時期
ほうれん草	○	5～6 月 11～12 月	かぼちゃ		8～9 月
玉ねぎ	○	6～7 月	里芋	○	9～11 月
にんにく		5～6 月	青菜	○	10～12 月
とうもろこし	○	6～8 月	そば		10～11 月
トマト		6～11 月	さつまいも		10～11 月
じゃがいも	○	7～8 月	ブロッコリー	○	10～12 月
きゅうり		7～8 月	スナックえんどう		10～6 月
なす	○	7～9 月	キャベツ	○	11 月
夕顔		7～8 月	大根		11～12 月
オクラ	○	7～9 月	白菜	○	11～12 月

●中山町で生産されている主な果物

果 樹	学校給食で使 用している	収穫時期	果 樹	学校給食で使 用している	収穫時期
さくらんぼ	○	6～7 月	りんご	○	10～12 月
すもも	○	7～9 月	柿		10～12 月
もも		8～9 月	西洋なし		10～12 月
ぶどう		8～9 月	日本なし	○	9～11 月

●中山町で生産されている米・豆類

作 物	学校給食で使 用している	収穫時期
米	○	9～10 月
豆類	○	7～12 月

(6) 食文化の継承

【現 状】

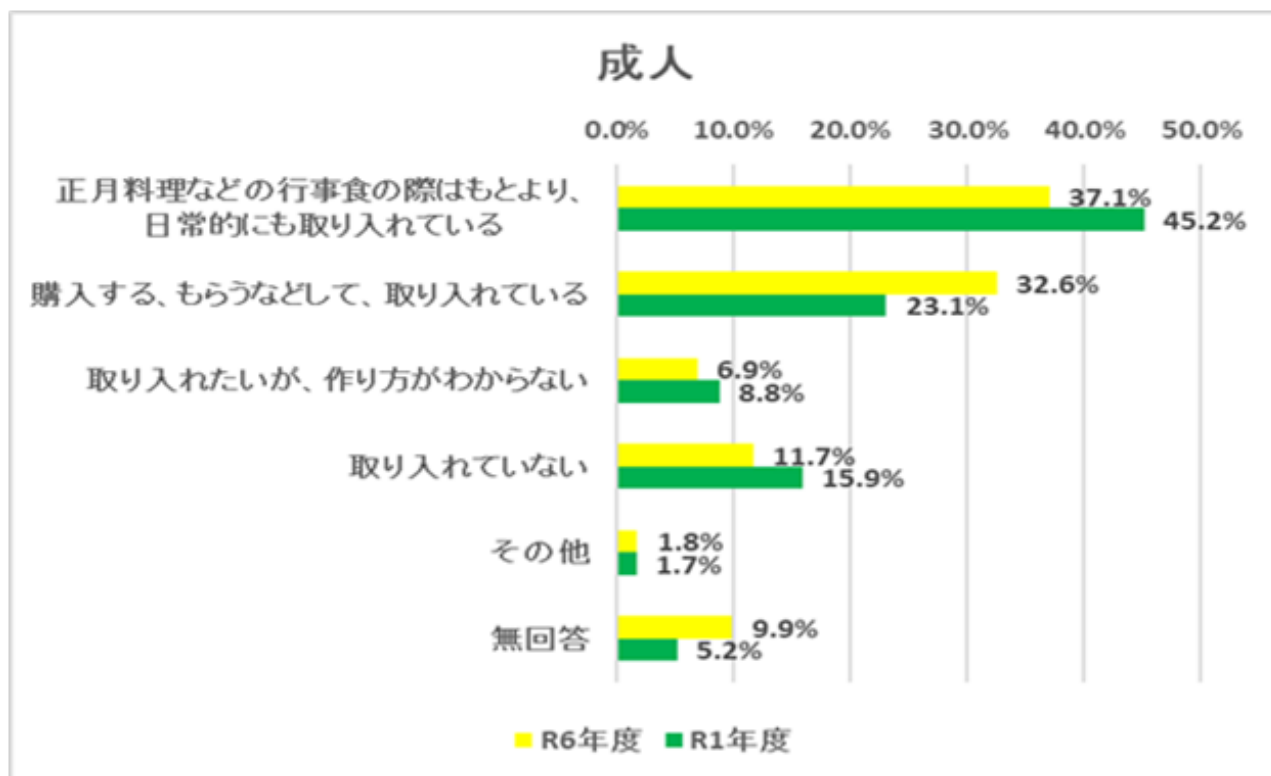
郷土料理（※9）や伝統食はその地域で伝えられ、食べ継がれてきたものです。地域の特産物を使用する料理が多く、地域の恵みが活かされており、気候、風土、文化、産業の理解などにも繋がります。さらに、郷土愛を育み、地域社会を構築するうえで大きな役割を果たしてきています。しかし、核家族化や外食の普及により、地域行事等による郷土料理や伝統食に触れる場が減少し知識や経験を伝承していく機会が少なくなってきました。

アンケート結果では、「正月料理などの行事食の際はもとより、日常的にも取り入れている」と回答した人が4割未満で令和元年度を下回っている一方、「購入する、もらうなどして、取り入れている」と回答した人が3割と上回っております。また、「取り入れたいが、作り方がわからない」「取り入れていない」は減少傾向にあることから、何らかの方法で郷土料理や伝統食を取り入れている人の割合は増えている結果となりました。

【課題】

保育所や幼稚園、学校の給食など様々な機会を通し、郷土料理や伝統食に触れることで町民一人ひとりが先人の知恵や地域の良さを理解し、次世代へ繋いでいくことが大切です。今後も学校、保育園、幼稚園の配布物や町広報誌を活用し、若い世代に食文化を継承し、郷土愛を育んでいく必要があります。

問 郷土料理や伝統食を家庭の食卓に取り入れていますか



資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

※9 郷土料理： その地域の産品を主体とし、その地域で発展した調理方法で作られた料理

(7) 町民の食への意識

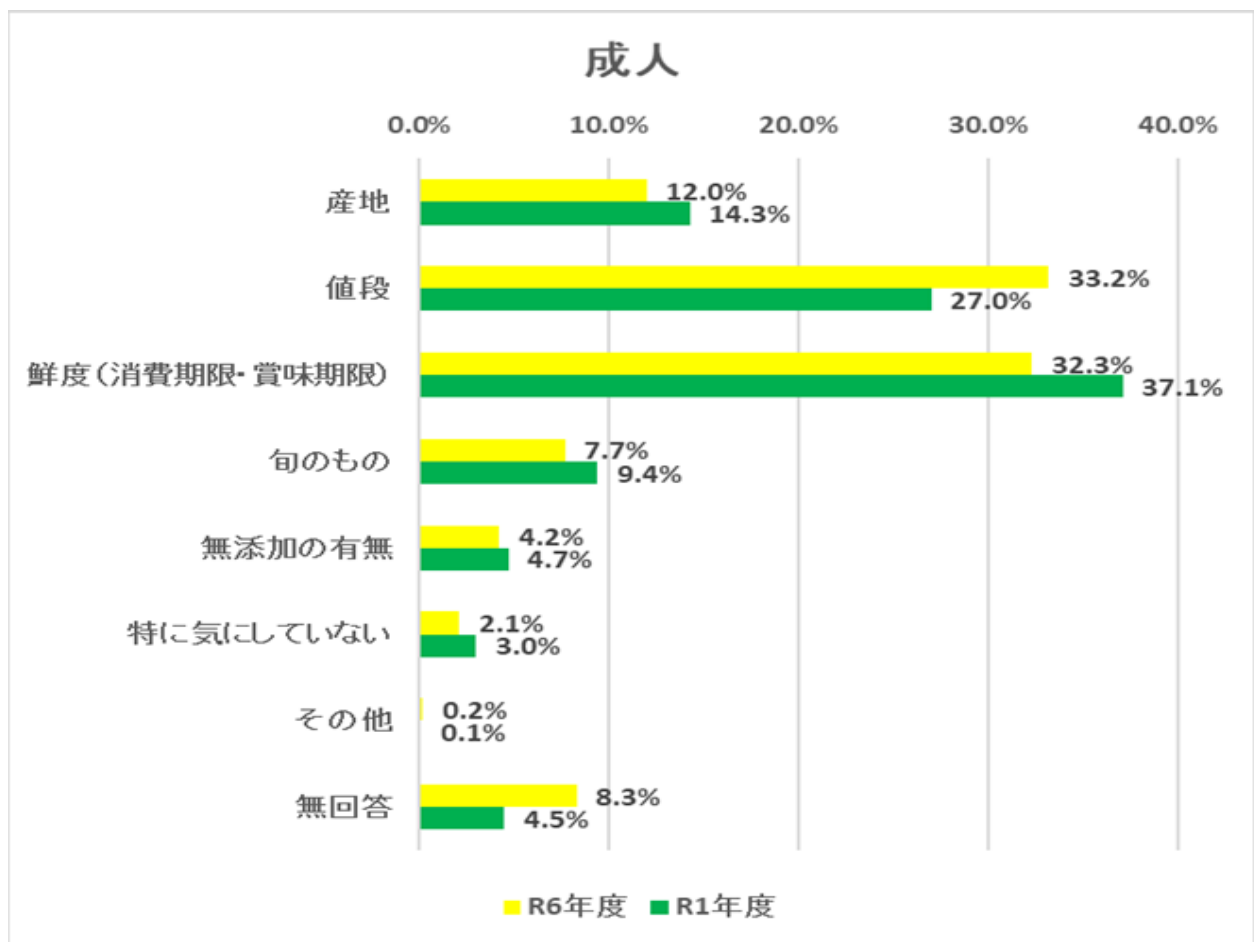
【現 状】

アンケート結果では、成人において食育の「言葉も意味も知っている」人が増加し、興味・関心も増加傾向にあることから食育への意識の前向きな変化が伺えます。なお、「食育」に関する事柄について、小中学生・成人ともに「栄養バランスの取れた食事を3食（朝、昼、晩）きちんと食べること」への興味・関心が高いことが伺えます。また、成人アンケートで食材の購入の際、重視していることの回答において令和6年度は「値段」と「鮮度（消費期限・賞味期限）」の順位が入れ替わったものの、「産地」「値段」「鮮度（消費期限・賞味期限）」が重要視されている点は令和元年度と同様でした。

【課 題】

更なる食育への意識の向上のために学校、保育園、幼稚園の配布物や町広報誌、町公式LINEアカウント等を活用し、食育に関する取組みを紹介することで興味・関心を持てるように働きかける必要があります。

問 食材を購入する際、重視していることはありますか（2つまでに○印）



資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

問 「食育」という言葉や意味を知っていますか

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 言葉も意味も知っている	36.7%	41.7%	43.4%	26.3%	62.3%	72.8%
2. 言葉は知っているが、 意味は知らない	52.0%	41.7%	42.4%	61.4%	25.5%	17.7%
3. 言葉も意味も知らない	6.1%	16.7%	11.1%	12.3%	7.6%	2.7%
無回答	5.1%	0.0%	3.0%	0.0%	4.5%	6.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

問 「食育」に興味・関心がありますか

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 興味・関心がある	21.4%	15.0%	9.1%	0.0%	29.1%	32.6%
2. どちらかといえば興味・関心がある	29.6%	35.0%	30.3%	31.6%	43.9%	46.7%
3. どちらかといえば興味・関心がない	21.4%	23.3%	23.2%	28.1%	9.4%	9.9%
4. 興味・関心がない	4.1%	3.3%	14.1%	15.8%	6.6%	1.8%
5. わからない	15.3%	23.3%	20.2%	24.6%	7.5%	2.1%
無回答	8.2%	0.0%	3.0%	0.0%	3.6%	6.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

問 「食育」について、どんなことに興味・関心がありますか。

(「1 興味・関心がある」「2 どちらかといえば興味・関心がある」に回答した人

小学6年 30人 中学2年 18人 成人 265人) (あてはまるもの全てに○印)

項 目	小学6年		中学3年	中学2年	成人	
	R1	R6	R1	R6	R1	R6
1. 家族と楽しく食事をする事	74.0%	53.3%	48.7%	44.4%	66.1%	60.7%
2. 食品を選ぶ力や食事準備に必要な知識と技術を身につける事	36.0%	43.3%	43.5%	61.1%	40.8%	54.3%
3. 栄養バランスの取れた食事を3食(朝、昼、晩)きちんと食べる事	56.0%	53.3%	74.3%	72.2%	73.6%	66.4%
4. がんや糖尿病などの病気にならない健康な体をつくる事	36.0%	50.0%	53.8%	38.8%	46.9%	39.6%
5. 食べ物に対する感謝の気持ちを大切にすること	52.0%	50.0%	56.4%	38.8%	52.7%	51.3%
6. 太りすぎややせすぎをなくし健康を守ること	24.0%	46.6%	33.3%	16.6%	40.1%	32.4%
7. その他	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.5%	1.5%
無回答	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.1%

資料：中山町「食育・地産地消アンケート調査」

(7) 第2次中山町食育・地産地消推進計画（令和2年3月策定）の目標と実績

項 目	現状値（R1 年度）	目標値（R6 年度）	実績（R6 年度）	評 価
朝食を毎日食っている 人の割合	小学生 94.9%	95%以上	小学生 80.0%	—
	中学生 84.8%	90%以上	中学生 87.7%	—
	大人 85.2%	90%以上	大人 81.7%	—
ごはん、パンなどの主食 とおかずを食べる割合	小学生 85.7%	90%以上	小学生 63.8%	—
	中学生 80.9%	85%以上	中学生 76.8%	—
	大人 86.1%	90%以上	大人 76.9%	—
地産地消に興味・関心が ある人の割合	小学生 15.3%	40%以上	小学生 66.6%	達成
	中学生 8.1%	30%以上	中学生 66.7%	達成
	大人 33.0%	50%以上	大人 75.1%	達成
食育に興味・関心がある 人の割合	小学生 33.0%	40%以上	小学生 50.0%	達成
	中学生 21.4%	30%以上	中学生 31.6%	達成
	大人 9.1%	50%以上	大人 79.3%	達成
学校給食食材の町内産 農産物の使用割合(重量 ベース)	23.8%	27.0%	16.7%	—
6次産業化に対する支 援件数（各年の延べ数）	0 件	3 件	0 件	—

3 食育・地産地消の目標

(1) 重点目標

- ① 食育・地産地消の大切さを広く住民に広める
- ② 朝食の摂取率の維持・向上に努め、主食・主菜・副菜をバランスよく食べることを推進する
- ③ 地場産農産物の消費拡大と、地場産農産物を活用した加工品の商品化を推進する

(2) 第3次中山町食育・地産地消推進計画の数値目標

本計画を着実に推進し、目標とする施策を実現するため成果項目と数値目標を設定します。

項 目	現状値 (R6 年度)	目標値 (R11 年度)
朝食を毎日食べている人の割合	小学生 80.0%	90%以上
	中学生 87.7%	90%以上
	大人 81.7%	90%以上
ごはん、パンなどの主食とおかずを食べる割合	小学生 63.8%	70%以上
	中学生 76.8%	80%以上
	大人 76.9%	80%以上
地産地消に興味・関心がある人の割合	小学生 66.6%	70%以上
	中学生 66.7%	70%以上
	大人 75.1%	80%以上
食育に興味・関心がある人の割合	小学生 50.0%	60%以上
	中学生 31.6%	40%以上
	大人 79.3%	80%以上
学校給食食材の町内産農産物の使用割合 (米、牛乳を除く農林水産物及びその加工食品)	16.7%	27.0%
6次産業化に対する支援件数(各年の延べ数)	0 件	3 件

※学校給食食材の町内産農産物の使用割合における目標値(R11年度)は第6次中山町総合発展計画(R2年度)による

※学校給食食材の町内産農産物の使用割合における現状値(R6年度)は、令和5年度実績による

※その他の数値は、中山町「食育・地産地消アンケート調査」による

4 食育・地産地消推進の柱と方向性及び主な取組み

(1) 食における健康づくり

乳幼児期から高齢期に至るまで世代に応じた食育を推進し、生涯を通して健全な心身をつくるとともに規則正しい食習慣や食を通じて得られる様々な能力を身につけることを目指します。

区分	方 向 性	主な取組み
家 庭	①保育園・幼稚園、学校等を中心に早寝早起きをして、毎日朝ごはんを食べる習慣の形成を促します。 ②米を中心に、野菜、肉・魚など多様な副食からなる日本型食生活の実践を促します。	・ 幼稚園・保育園、学校等の配布物を活用した栄養や食生活に関する正しい情報の会得及び実践 ・ 健康相談、栄養相談への参加
保 育 ・ 教 育 機 関	①栄養のバランスが取れた献立による給食の提供による食育を推進していきます。	・ 栄養教諭による給食指導や栄養指導 ・ 幼稚園、保育園での園だより、小中学校での給食だよりによる食育推進 ・ 幼稚園保育参観と合わせた食育事業の実施 ・ 保育園カミカミ献立の実施 ・ 保育園給食料理の展示
地 域	①ボランティア団体等による食育を推進していきます。	・ 食生活改善推進員（※10）による幼稚園・保育園での食育事業の実施
行 政	①ボランティア団体等の食育活動を支援していきます。 ②栄養や食生活に関する正しい情報を提供していきます。	・ 食生活改善推進員の養成及び活動支援 ・ 民間団体が運営する子ども食堂の立ち上げや運営の支援 ・ 各種教室の開催 ・ 健康相談、栄養相談の開催 ・ 健幸くらぶ健康教室の開催 ・ 子育て支援センター健康・栄養講話の実施

※10 食生活改善推進員：食生活の改善を通じた疾病の予防や健康づくりを目的とし、地域住民への望ましい食生活の普及を実践する健康づくりボランティア

(2) 地産地消と安全・安心な食

農産物の生産段階におけるリスク管理や衛生管理、農薬の適正な使用管理による安全・安心な農産物の生産を推進するとともに、地産地消について住民に広く周知し、生産者と消費者と間の「顔が見える関係づくり」などによる信頼関係のもと安全・安心な食の実現を目指します。

区分	方 向 性	主な取組み
家 庭	①地場産の食材に興味・関心を持ち、日々の食卓において地元野菜を取り入れることを推進します。 ②主体的な判断により食品を選択できる消費者を育てていきます。	・食の安全安心に関する情報の正しい理解と情報の会得
保 育 ・ 教 育 機 関	①学校給食関係者及び生産者と連携を図り、地場産物利用の拡大を進めていきます。	・学校給食における地場農産物の使用拡大 ・小学校における生産者を招き農業体験の実施
地 域	①地場産農産物を地域全体で消費するとともに、地産地消の拡大を図っていきます。	・食生活改善推進員による村山特産野菜料理教室の開催及び野菜摂取量増加の推進を図る
生 産 者 等	①食の安全・安心につながる農産物の生産を推進していきます。	・生産マニュアルや防除基準等に基づいた肥料と農薬の安全使用の徹底 ・産直施設における生産者情報やレシピなどの掲示
行 政	①安全安心な農産物や農産加工品の情報提供を推進していきます。 ②旬の地場産野菜や果物を学校給食・保育園給食へ導入することを推進していきます。	・産地表示や栄養成分表示など食品表示を正しく理解するための情報提供 ・ひまわり温泉ゆ・ら・ら売店における町内農産物購入時の割引券配付による町内農産物の販売促進および消費応援

(3) 食文化の継承

食文化についてイベントや広報誌等により情報を発信していくとともに、学校や幼稚園、保育園の給食に郷土料理や行事食を取り入れるなど、若い世代にも受け入れられるような取組みを推進していきます。

区分	方 向 性	主な取組み
家 庭	①郷土料理や行事食を家庭料理に取り入れ、郷土愛を育んでいきます。	・郷土料理の由来などを学ぶとともに、作る機会や食べる機会を増やす
保 育 ・ 教 育 機 関	①保育園給食献立へ郷土料理等を取り入れ、料理の由来や食材などを紹介します。 ②学校給食献立へ郷土料理等を取り入れ、料理の由来や食材などを紹介します。	・郷土料理や地域の行事食等、季節食材を利用した給食の拡充（園だより等による啓発） ・保育園行事食の実施 ・保育園給食料理の展示 ・郷土料理や地域の行事食等、季節食材を利用した特別献立の実施 ・昼の放送や給食だより等による啓発 ・日本遺産「山寺と紅花」に認定された芋煮とおみづけの学校給食への提供 ・学校給食における芋棒煮（※11）の提供
地 域	①郷土の食文化を未来に伝えるべきものとして、地域に伝承していきます。	・食生活改善推進員による郷土料理の継承
行 政	①産業振興課では町の食文化について、イベントや広報誌等により情報を発信していきます。	・観光パンフレットやSNS等を活用した情報発信 ・イベントにおける芋棒煮および芋煮会発祥の地の情報発信

※11 芋棒煮：芋煮会発祥当時の棒鱈を使用した芋煮。

(4) 食を楽しみ、食に感謝する

食育について住民に広く周知し、食を通じた思いやりの心と感謝の気持ちを育みます。また、食卓での一家団欒を通じて思いやりの心を育みます。

区分	方 向 性	主な取組み
家 庭	①食事のあいさつやマナーを習得し、食べようとする意欲、料理を作る力など「食」に対する興味・関心を育てます。	・「いただきます」や「ごちそうさま」などの食事時のあいさつの習慣化
教育・ 保育機関	①自然の恩恵や食に関わる人々への理解を深め、食に対する感謝の心を育んでいきます。	・幼稚園、保育園の園だよりの発行 ・幼稚園、保育園での野菜栽培の実施 ・幼稚園、保育園で収穫した野菜の試食会の開催 ・バイキング給食の実施 ・1月の給食記念日にあわせた「心を育む学校給食週間」の実施 ・6月の食育月間に合わせた取組みの推進 ・食事のあいさつ、食事マナー、栄養バランスなどの食育指導 ・交流給食の実施 ・農作業体験学習の実施
地 域	①ボランティア団体等による食育を推進していきます。	・単身高齢者の集いの開催(社会福祉協議会) ・単身高齢者へ手作りおせちお弁当配付(社会福祉協議会)
行 政	①食育に関する情報を提供します。	・パパママ教室、もぐもぐごっくん教室の開催 ・保育園での豊作祈願や農業者との交流の場の餅つきと餅の会食の実施

(5) 6次産業化の推進

地場産農産物を活用し、地域の個性を活かした新たな付加価値を生み出す6次産業化（※12）を推進していきます。

区分	方 向 性	主な取組み
生産者等	①農産物や地域資源を活用した商品価値を高める取組みを推進していきます。	・山形6次産業化サポートセンター等を活用した新たな加工品の開発
行政	①地場産農産物を活用した新たな加工品の商品化に向け支援していきます。 ②地場産農産物や加工品を町内外へ情報発信し、消費拡大を図ります。	・6次産業化支援機関や各種補助金の活用に向けた情報提供、相談の受付 ・観光パンフレットやSNS等を活用した情報発信 ・県内外のイベントや物産展での地場産農産品および農産加工品のトップセールスなどによるPR

※12 6次産業化：1次産業である農林水産業が、農林水産業の生産だけにとどまらず、それを原料とした加工食品の製造・販売や観光農園のような地域資源を生かしたサービスなど、2次産業や3次産業と連携した取組み

5 資料

(1)食育・地産地消アンケート 《小学生・中学生》

以下の質問について、特にことわりのあるものを除き、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

- 【性 別】 1 男 2 女
- 【学 年】 1 小学6年 2 中学2年
- 【家族構成】 1 親と自分（と兄弟）
 2 祖父（母）と親と自分（と兄弟）
 3 その他（ ）

問1 朝食を毎日食べていますか。

- 1 毎日食べる 2 週に1～2日食べない
3 週に3～4日食べない 4 ほとんど食べない

問1－1 問1で「1～2」に○をつけた方におたずねします。

朝食は、どのような内容がもっとも多いですか。

- 1 主食（ごはん、パンなど）とおかず 2 主食（ごはん、パンなど）の主食のみ
3 おかずのみ 4 果物だけ 5 飲み物だけ 6 その他（ ）

問1－2 問1で「3～4」に○をつけた方におたずねします。

いつ頃から朝食を食べないようにになりましたか。

- 1 幼児期 2 小学1年～3年 3 小学4年～6年 4 中学1年～3年

問1－3 問1で「3～4」に○をつけた方におたずねします。

朝食を食べない理由はなんですか。

- 1 食欲がないから 2 太りたくないから 3 朝起きる時間が遅く、食べる時間がないから
4 朝食が用意されていないから 5 その他（ ）

問2 食事は家族そろって食べていますか。（朝食、夕食それぞれ1つに○印）

- （朝食） 1 家族全員そろって食べる 2 家族の誰かと食べる 3 一人で食べる
 4 食べない 5 その他（ ）
（夕食） 1 家族全員そろって食べる 2 家族の誰かと食べる 3 一人で食べる
 4 食べない 5 その他（ ）

問2－1 問2で「3」に○をつけた方におたずねします。

朝食や夕食を一人で食べている理由はなんですか。

- 1 家族と食事の時間が合わないから 2 自分の部屋で食べているから
3 その他（ ）

問3 「地産地消」という言葉や意味を知っていますか。

- 1 言葉も意味も知っている 2 言葉は知っているが、意味は知らない
3 言葉も意味も知らない

問4 「地産地消」に興味・関心がありますか。

- 1 興味・関心がある 2 どちらかといえば興味・関心がある
3 どちらかといえば興味・関心がない 4 興味・関心がない
5 わからない

問4-1 問4で「1～2」に○をつけた方におたずねします。

「地産地消」について、どんなことに興味・関心がありますか。(あてはまるもの全てに○印)

- 1 食料を外国からの輸入に頼らず、自給自足を目指すこと
- 2 自然環境に合った食べ物の生産が大切であること
- 3 安全・安心な食べ物を食べることができること
- 4 地元の食べ物やしきたりを受け継いでいくこと
- 5 農作物を作る人と食べる人の間の交流や信頼が重要であること
- 6 その他（ ）

問5 「食育」という言葉や意味を知っていますか。

- 1 言葉も意味も知っている 2 言葉は知っているが、意味は知らない
3 言葉も意味も知らない

問6 「食育」に興味・関心がありますか。

- 1 興味・関心がある 2 どちらかといえば興味・関心がある
3 どちらかといえば興味・関心がない 4 興味・関心がない
5 わからない

問6-1 問6で「1～2」に○をつけた方におたずねします。

「食育」について、どんなことに興味・関心がありますか。(あてはまるもの全てに○印)

- 1 家族と楽しく食事をする事
- 2 食品を選ぶ力や食事準備に必要な知識と技術を身につける事
- 3 栄養バランスの取れた食事を3食（朝、昼、晩）きちんと食べること
- 4 がんや糖尿病などの病気にならない健康な体をつくること
- 5 食べ物に対する感謝の気持ちを大切にすること
- 6 太りすぎややせすぎをなくし健康を守ること
- 7 その他（ ）

ご協力ありがとうございました。

(2)食育・地産地消アンケート 《成人》

以下の質問について、特にことわりのあるものを除き、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

【性 別】 1 男 2 女 3 回答しない

【年 齢】 1 10代 2 20代 3 30代
 4 40代 5 50代 6 60代 7 70歳以上

【家族構成】 1 核家族（親と子）
 2 3世代（祖父（母）、父、母、子）
 3 夫婦のみ
 4 一人暮らし
 5 その他（ ）

問1 朝食を毎日食べていますか。

- 1 毎日食べる 2 週に1～2日食べない
3 週に3～4日食べない 4 ほとんど食べない

問1－1 問1で「1～2」に○をつけた方におたずねします。

朝食は、どのような内容がもっとも多いですか。

- 1 主食（ごはん、パンなど）とおかず 2 主食（ごはん、パンなど）の主食のみ
3 おかずのみ 4 果物だけ 5 飲み物だけ 6 その他（ ）

問1－2 問1で「3～4」に○をつけた方におたずねします。

いつ頃から朝食を食べないようにになりましたか。

- 1 幼児期 2 小学校 3 中学校 4 高校生 5 19歳以降

問1－3 問1で「3～4」に○をつけた方におたずねします。

朝食を食べない理由はなんですか。

- 1 食欲がないから 2 太りたくないから 3 朝起きる時間が遅く、食べる時間がないから
4 朝食が用意されていないから 5 その他（ ）

問2 食事は家族そろって食べていますか。（朝食、夕食それぞれ1つに○印）

- （朝食） 1 家族全員そろって食べる 2 家族の誰かと食べる 3 一人で食べる
 4 食べない 5 その他（ ）
（夕食） 1 家族全員そろって食べる 2 家族の誰かと食べる 3 一人で食べる
 4 食べない 5 その他（ ）

問2－1 問2で「3」に○をつけた方におたずねします。

朝食や夕食を一人で食べている理由はなんですか。

- 1 家族と食事の時間が合わないから 2 自分の部屋で食べているから
3 1人暮らしだから 4 その他（ ）

問3 メタボリックシンドローム（内臓肥満型症候群）という言葉やその意味を知っていますか。

- 1 言葉も意味も知っている 2 言葉も意味もだいたい知っている
- 3 言葉は知っているが、意味は知らない 4 言葉も意味も知らない

問4 毎日野菜を食べていますか。

- 1 1日3回食べる 2 1日2回食べる
- 3 1日1回食べる 4 ほとんど食べない

問4-1 問4で「1～3」に○をつけた方におたずねします。

地元の野菜を使っていますか。（あてはまるもの全てに○印）

- 1 家庭で野菜を作っている 2 近所の方からいただいている
- 3 スーパー等で購入している 4 直売所で購入している
- 5 産地を気にせず購入している 6 わからない
- 7 その他（ ）

問5 健全な食生活を実践するために、「食事バランスガイド」を参考にしていますか。

- 1 いつも参考にして実践している 2 時々参考にして実践している
- 3 「食事バランスガイド」は知っているが、参考にしたことがない
- 4 「食事バランスガイド」を知らない

問6 「地産地消」という言葉や意味を知っていますか。

- 1 言葉も意味も知っている 2 言葉は知っているが、意味は知らない
- 3 言葉も意味も知らない

問7 「地産地消」に興味・関心がありますか。

- 1 興味・関心がある 2 どちらかといえば興味・関心がある
- 3 どちらかといえば興味・関心がない 4 興味・関心がない
- 5 わからない

問7-1 問7で「1～2」に○をつけた方におたずねします。

「地産地消」について、どんなことに興味・関心がありますか。（あてはまるもの全てに○印）

- 1 食料を外国からの輸入に頼らず、自給自足を目指すこと
- 2 自然環境に合った食べ物の生産が必要であること
- 3 安全・安心な食べ物を食べることができること
- 4 地元の食べ物やしきたりを受け継いでいくこと
- 5 農作物を作る人と食べる人の間の交流や信頼が重要であること
- 6 その他（ ）

問8 食材を購入する際、重視していることはありますか。（2つまでに○印）

- 1 産地 2 値段 3 鮮度（消費期限・賞味期限）
- 4 旬のもの 5 添加物の有無 6 特に気にしていない
- 7 その他（ ）

問9 郷土料理や伝統食を家庭の食卓に取り入れていますか。

- 1 正月料理などの行事食の際はもとより、日常的にも取り入れている
- 2 購入する、もらうなどして、取り入れている
- 3 取り入れたいが、作り方がわからない
- 4 取り入れていない
- 5 その他（ ）

問10 「食育」という言葉や意味を知っていますか。

- 1 言葉も意味も知っている
- 2 言葉は知っているが、意味は知らない
- 3 言葉も意味も知らない

問11 「食育」に興味・関心がありますか。

- 1 興味・関心がある
- 2 どちらかといえば興味・関心がある
- 3 どちらかといえば興味・関心がない
- 4 興味・関心がない
- 5 わからない

問11-1 問11で「1～2」に○をつけた方におたずねします。

「食育」について、どんなことに興味・関心がありますか。（あてはまるもの全てに○印）

- 1 家族と楽しく食事をすること
- 2 食品を選ぶ力や食事準備に必要な知識と技術を身につけること
- 3 栄養バランスの取れた食事を3食（朝、昼、晩）きちんと食べること
- 4 がんや糖尿病などの病気にならない健康な体をつくること
- 5 食べ物に対する感謝の気持ちを大切にすること
- 6 太りすぎややせすぎをなくし健康を守ること
- 7 その他（ ）

ご協力ありがとうございました。

(3) 第3次山形県食育・地産地消推進計画における数値目標

項 目		現況値 (R1 年度)	目標値(R6 年度)
1	朝食を毎日摂っている児童生徒の割合		
	小学校6年生	88.9%	90.0%程度
	中学校3年生	87.2%	90.0%程度
2	食の安全・安心に関する情報提供の登録施設数	328 施設	340 施設
3	野菜摂取量の平均値 (20 歳以上)	285.3g (H28)	350g (R4)
	食塩摂取量の平均値 (20 歳以上)	10.3g (H28)	8 g (R4)
	管理栄養士又は栄養士を配置している特定給食施設の割合	75.9%	80% (R4)
4	食農教育活動実施組織数	118 組織	130 組織
5	食農教育活動実施回数 (各年延べ)	493 回	520 回
6	学校給食における県産食材の使用割合 (米、牛乳を除く農林水産物及びその加工食品)	30%	100%
7	直売所における販売額	118 億円	140 億円
8	地産地消に協力する店舗の数	1,328 店舗	1,400 店舗
9	市町村における食育推進計画の策定	88.6%	100%
10	市町村における地産地消促進計画の策定	97.1%	100%

(出典)

- ※1 全国学力・学習状況調査 (文部科学省)
- ※2 食の安全ほっとインフォメーション掲出施設数 (県食品安全衛生課)
- ※3 県民健康・栄養調査 (県健康づくりプロジェクト推進室)
- ※4、5 食農教育の取り組み状況調査 (県6次産業推進課)
- ※6 学校給食における県産農林水産物使用割合調査 (県スポーツ保健課・県6次産業推進課)
原則として、地産地消ウィーク期間の使用割合を記載しております
- ※7 農業者による起業活動実態調査 (県6次産業推進課)
- ※8 地産地消ウィーク協力店舗、食の応援団会員、市町村における地産地消協力店など (県6次産業推進課)
- ※9、10 策定状況調査 (県6次産業推進課)

中山町食育・地産地消推進協議会設置規約

(設置)

第1条 この規約は、中山町の総合的な食育及び地産地消の推進を図るため、中山町食育・地産地消推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 協議会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 食育、地産地消及び6次産業化の推進のための計画策定に関すること
- (2) 食育、地産地消及び6次産業化に関する情報の収集及び周知に関すること
- (3) その他、食育、地産地消及び6次産業化の推進のため必要と認められること

(組織)

第3条 協議会の委員は、12名以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- (1) 農業関係者
- (2) 農産物の加工、6次産業化、流通及び販売関係者
- (3) 食生活改善団体を代表する者
- (4) 消費者団体を代表する者
- (5) 教育関係者
- (6) 学識経験者
- (7) 行政関係者
- (8) その他町長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員の再任は、妨げない。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長には中山町副町長を充て、副会長は会長の指名により選出する。
- 3 会長は協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことはできない。
- 3 会長は、会議の運営上必要があると認める場合、議事に関係のある者を出席させ、意見を求めることができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、産業振興課において処理する。

(その他)

第8条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、会長が会議に諮って決める。

附 則

(施行期日)

この規約は、平成25年6月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この規約は、令和元年12月18日から施行する。

中山町食育・地産地消推進協議会委員名簿

団 体 名	委 員	備 考
中山町	副 町 長 秋 葉 秀出男	会長
中山町農業委員会	会 長 石 沢 伸 悦	
山形農業協同組合北部営農センター	センター長 高 橋 俊 一	
ふきちゃん本舗	代 表 高 橋 富貴子	
中山町食生活改善推進協議会	会 長 工 藤 松 子	
中山町消費生活研究会	会 長 岸 信 子	副会長
中山町小中学校長会	会 長 大 津 範 夫	
なかやま保育園	園 長 渡 邊 齊	
中山町商工会	会 長 大 津 慶 友	
山形県栄養士会	顧 問 西 村 恵美子	